



様式第2号

令和2年11月12日

坂戸市議会議長 様

会派名 さかど新政会  
代表者名 猪俣 直行



実施報告書

下記のとおり、調査研究等を実施したので報告します。

記

- 1 期 日 令和2年10月15日(木) 午後1時30分～3時30分
- 2 参加者氏名

飯田 恵	猪俣直行		

- 3 調査研究等の行き先及び内容

行き先	内 容
坂戸市役所 本会議場	坂戸市議会議員研修会 「最近の災害等とその対応～消防を取り巻く変化と 気象災害～」

- 4 概要  
別添のとおり

## 坂戸市議会議員研修会報告書

1 日 時：令和2年10月15日（木）午後1時30分～3時30分

2 場 所：坂戸市役所本会議場

3 研修の内容：

講演「最近の災害等とその対応～消防を取り巻く変化と気象災害～」

講師 一般社団法人全国市町村振興協会理事長、気象予報士 坂本森男先生

4 参加者 2名

飯田 恵 ・ 猪俣 直行

5 結果（参加者意見・感想）

◎ 本題に入る前に先生から、先日前新型コロナウイルス感染症対策推進室長の樽見先生の講演から新型コロナウイルスの話があった。

危機管理の観点から、コロナウイルス発生ポイントとしてピークは4月・7月の2回、年齢的には20代が多く、40～50代と重傷者の割合が上がり、高齢者の死亡率は高くなる。ただし30代以下の死亡は0人と言った数値から若者の行動力と高齢者の免疫力低下が原因かと考えられているようだ。

飛沫感染として、飲酒店が多いのはお酒を飲むと聴力が低下し自然に声が大きくなり、大声によって飛沫を拡散してしまう。比較的電車内の飛沫感染はないと言う。

日本は他国と比べ風習の違いからか数値は低いと言われる。例えば日本語の発音にしても日本語は「破裂音」が少なく「パピプペポ」と言った発音が少ないことから飛沫感染のリスクは少ないようだ、そして日本人はスキンシップを挨拶にする人種ではないためヒトヒト感染のリスクも少ないようだ。

◎ 地球43億年の地形歴史から

- ・今各国で言われている地球温暖化対策としてCo2削減を今慌てて始めても直ぐには変わらない。
- ・グリーンランドの氷河が溶けて無くなれば、日本は寒くなる。
- ・人のいない惑星や場所では災害が無い。

◎ 最近の災害等とその対応

●風水害の多発化

最近は大雨が多い訳ではなく、大雨の割合が多くなった。

●火山噴火の懸念

火山噴火による噴石の速さは時速300～400キロで、噴石に当たるとショック死するケースがある。しかし、防護姿勢をとることでケガはするが、死亡には繋がりにくい。

●多様な火災の発生

最近インターチェンジ付近に多くの倉庫が増えているが、消防力は人口に合わせた消防力のため離れた場所での消防力は弱い。

消火については、①燃える物を無くす。②水をかけて温度を下げる。③風呂敷等を被せ空気を遮断する。

●地球温暖化と気象災害

最近の台風は前線が絡んでいることから、大きな台風になる傾向がある。

●期間降水量と平均値

短時間に 300mmの雨が降ったら災害が起きる可能性がある。

80mmの雨が一時間降り続いたらそれは、猛烈な雨。

歩行困難になる水深は、成人男性 70 cm・成人女性 50 cm・こども 20 cm

自宅ドアが開かなくなる水深は、外開き 26 cm・内開き 47 cm

車のドアが開かなくなる水深は、60 cm

車のエンジンが止まる水深は、15～20 cm

◎ 研修を受けて、新型コロナウイルスに対する新たな感染事由を知った。

普段は手洗いマスクの予防はしているが、マスクを外した際、飛沫感染のリスクがお酒発音、人種、によって異なることもよくわかりました。

災害等の対応については、知っているようで、改めて数値で聞くと思い違いに気が付き、いつ起こるか分からない災害等には、再度確認をしなければいけないと思った。

まずは、市で配布されている防災マップを熟読することが大事であると考えます。